



ふるさと納税の本当の意義

大田区立矢口中学校 三年 井口 和奏

私の家ではふるさと納税を利用している。特にフルーツを返礼品としている自治体を選ぶことが多い。形も味も良いものがたくさんあるため、家族で楽しみながら選んでいる。しかし、私はふるさと納税がどのような仕組みなのか分かっていない。なぜ税金を納めるだけで返礼品が届くのだろうか。この疑問について調べていこう。

総務省のふるさと納税ポータルサイトによると、ふるさと納税とは、選んだ自治体に寄附を行った際に寄附額のうち二千円を超える部分が所得税と住民税から控除される制度とある。自分自身で寄附金の使い道を決められたり、地域の名産品などの返礼品がいただけたりと嬉しい仕組みだ。

しかし、このようにふるさと納税には問題もある。自分の応援したい自治体に寄附をする人が増えた分、住んでいる自治体の税収が減っているのだ。私の住んでいる大田区のホームページによれば、大田区では令和五年度の減収額が五十九億円に上ると見込まれているらしい。五十九億円という金額は、公園や道路の維持管理にかかる経費一年分だ。このような状況が続くと今のようないい景観は乱れてしまうだろう。

総務省のふるさと納税ポータルサイトによると、ふるさと納税の意義と

は「納税者が寄附先を選択する制度であり、選択するからこそ、その使われ方を考えるきっかけとなる制度であること」「生まれ故郷はまちろん、お世話になった地域に、これから応援したい地域へも力になれる制度であること。それは、人を育て、自然を守る、地方の環境を育む支援になること」として「自治体が国民に取組をアピールすることでふるさと納税を呼びかけ、自治体間の競争が進むこと。それは、選んでもらうに相応しい地域のあり方をあらためて考えるきっかけになること」の三つだそうです。しかし、今まで私は返礼品を見て寄附先を選んでいました。おそらく、多くの人は私と同じように、自治体ではなく返礼品を見て寄附先を決めているだろう。このままでは、多くの自治体が今までのように活動することが難しくなってしまうだろう。

私は大田区が好きだ。たくさん緑や公園があり、道路がきれいに舗装されていて、子どもや高齢者を支える取り組みを行っているこの区を未来に受けついでいきたいと思う。今回ふるさと納税について調べたことで、今まで知らなかった問題点について考えることができた。確かにふるさと納税は魅力的な制度だが、自分の住んでいる自治体に税金を納めることも大切である。大好きな町を未来へ繋ぐため、家族と話して考えてみよう。